

郷 土 の お 祭 り 展

昭和49年11月6日

～ 50年3月15日

三 島 市 郷 土 館

祭　　り

私達の郷土にも様々な祭りが数多くある。ことに祭りは秋に集中するようだ。

稲作の収穫や漁業の収穫の時と関連が深い。

祭りといふことの起源は古く、殆んどその國の誕生と同時であるといつてもよいであろう。現在「祭り」といわれているものには信仰を中心とした「お祭り」

と、多くの人々に見せたり、共に楽しんだりする行事中心の「祭礼」とがある

「お祭り」は豊作豊漁を予祝しあるいは感謝する目的で行なわれるが、「祭礼」

は見たり見せたり楽しんだりするレクリエーション的傾向が強いものである。

近年はとかく神仏から離れ易い大衆動員がなされているが、「祭り」の本質はむしろ前者であろう。

郷土館ではこうした視点をもとに、三島および伊豆半島の祭りを調べてみた。

三島大社のお田打祭り

例年1月7日に三島大社において行なわれる。田祭りとも呼ばれるが地元ではお田打という呼びかたが親しまれている。

この年の年の始めに豊作を祈願する為の雨乞いの祭りで、本殿での祭儀の後後舞殿において種まきから収穫までの水田耕作の様子を歌と舞いによつて表現するものである。

この祭りの歴史は古く約800年前の鎌倉時代から伝えられたと言われている。

間 眠 神 社 の 祭 り

鎌倉時代、源頼朝が三島大社へ参拝の途中神社の大松の下で仮眠したという
ことから、この名の付いた間眠神社は毎年8月1日がお祭りの日である。
その昔この神社は葦山の長崎に鎮座していたが狩野川の大洪水により現在の三
島市二日町に流れつき以来ここに鎮座するようになったと伝えられる。
そのような関係から8月1日のお祭りには鳥居にかける大注連縄は葦山長崎で
作り、部落の人たちがかついで現在の神社まで運んで来るといふならわしがで
き、この祭りの大切な行事となつて続けている。

三島大社の夏祭り

三島 ^{はや} ^囃 し

三島大社の夏祭りに三島囃しは忘れられないものである。

シヤギリの ^{ひび} 響きに三島子は心をときめかす。

この三島囃子は天文年間(1532-1554)三島大社の ^{まいまいやく} 舞舞役であつた ^{この} 幸

若 ^{わか} 樂 ^{がく} 惣 ^{そう} 太 ^{たい} 夫 ^{ふう} によつて ^{そのきよく} 創曲 ^{しんがう} され、神領内に住む若者たちに伝えられたものといわ

れている。幸若樂惣太夫の創曲になる三島囃しは次の7曲目に分けられている。

1 里ばやし、2 吉野ばやし、3 道ばやし、4 山ばやし、5 松ばやし、6 ^{しぐれ} 時雨ば

やし、7 ^{きおん} 祇園ばやし

や つ さ 祭 り

三島市内伊豆佐野で正月に行なわれる素朴なお祭りである。

正月16日の夜、村人は集つてモチをつき、ついたモチは農具のカマで切り神前にそなえる。残りのモチは宿と呼ばれる当番の家を持ち帰られる。その夜宿ではおこもりが行なわれる。

やつさ祭りという呼び方は、翌朝モチをつく際「やつさやつさ」と掛け声を出すことからこう呼ばれる様になつたらしい。

こ
り
幸
わ
る。
し
ば

サイの神祭り

サイの神祭りは神社の神とは関係なく行なわれる民間信仰のお祭りとして代表的なものでしょう。

祭りのしかたは地方によつて異なり。その呼びかたもいくつかある。ドンド焼，ドンドン焼き，さいと焼き，左義長などと呼ばれるのがそうである。一般に子供たちの祭りとして正月の14日に行なわれている。正月のお飾りなどをサイの神さんの周りで焼いてその年の子供たちの健康と部落の安全を祈願するのが祭りの主旨である。

絵馬には小絵馬と額絵馬がある。小絵馬はどこか身体の悪いところを治したい時祈願をこめて一般民衆が自ら板に絵を面き納めたものである。これに対し額絵馬は専門画家が書き、部落あるいは村全体の祈願（豊漁，豊作等の）をこめて神社に納めたものと言える。

絵馬とお祭りは直接には関係ないが、様々な絵馬に人々の信仰心がこめられていて興味深い資料となっている。

（以下は本文の続きと思われるが、画像が非常に淡く読み取れない）

（以下は本文の続きと思われるが、画像が非常に淡く読み取れない）

（以下は本文の続きと思われるが、画像が非常に淡く読み取れない）

小^{いな}稲祭り

伊豆半島最南端の町南伊豆町小稲という地区の祭りである。一般には虎舞いという呼称の方が親しまれている。

小稲祭りは旧暦の8月14日の夜に行なわれることになっている。今年はその日に当たるのが9月29日であつた

小稲の海岸にほど近い来宮神社の祭りで、当日は舞殿を海辺の浜に組み、あばれる虎を国性爺合戦の主人公和藤内が退治するという筋立の虎舞いが行なわれる。

ほりよ

漁業の町の豊漁を祈願した特色ある祭りである。

ね 子 の 神 社 の 神 楽

ね
子の神社は修善寺町加殿という部落にある。お祭りは10月
10日と11日に行なわれる。10日の夜から帳屋と呼ばれる
家に集まつておこもりの行をする。強飯をかやで包んだものを
神前にそなえておこもりは11日の朝まで続く。11日には子
の神社の広場で笛太鼓に合わせて神楽が奉納されるが、これが
祭のハイライトであろう。

舟 祭 り

伊東全市をあげて10月14日、15日の2日間舟祭りできわう。祭りの起源は宇佐美地区に鎮座する天神社の神様が海岸に上った時代にさかのぼる。時代とともに祭りの意味や形が変化し、海の安全、太漁の祈願というお祭りになったものと考えられる。

白装束で身を固めた青年達が神輿をかついで町内を練り歩いたり、神輿とともに海に入ったりする。夜には舟の形をした屋台を子供たちがにぎやかなおはやしに合わせて引いてまわる。海の町らしいお祭りである。

湯 立 か ぐ ら

御殿場市東山に鎮座する叢島神社などで暗夜の中で奉納される。この祭りの起源は江戸末期と伝えられるが、祭の形がどこから入つて来たかは明確ではない。祭の始まる1週間前から社殿でおこもりをして、身心を淨めた青年が祭の主役である。社殿前の境内に縄を張りむしろを敷いた簡単な舞台を作つて、その前で釜の湯をわかす神樂は社殿の中で1回、舞台上で2回舞う。

三社詣での道筋

鎌倉幕府の成立以後、三島明神、箱根権現、伊豆山権現に対する鎌倉幕府の尊崇は並み並みならぬものがあつた。特に実朝の和歌（金葉和歌集）に見られるような箱根、伊豆山の二社詣では十国峠の伊豆山道を開くようになったが、この二社と三島明神とを結ぶ三島山道が、鎌倉幕府の行事となり、それによつて箱根古道の登り口が川原ヶ谷の初音原丘上に移つて大体後の東海道路線をとるようになったと考えられる。

かん
千支
申の夜
奈良時
なつた
各地の
三島の
き
大変

庚申祭り

半支^{かし}の庚申に当たる日に行なわれる信仰行事である。長生きをするために庚

申の夜には身を慎^つしんで徹夜^つをせよという中国の道教^{どうきょう}の教えが日本に伝わり、

奈良時代から江戸時代にかけて仏教や神道の思想と混じり合い全国的に盛んになつた。

各地には庚申講^{こう}が組織され、庚申堂が建てられた。

三島の新谷地区に残る古文書には講の組織やお堂の開帳経過^{かいちやうけい}などがうかがえて

大変興味^{きじみ}深い。

お祭り展展示目録

№	資料名	点数	提供者	お祭り名
1	おひつ(もみ入れ)	1		お田打
2	もみ入れ(福の種)	1	"	"
3	もみ入れ()	1	"	"
4	おひつ足付	1	"	"
5	高 環	1	"	"
6	おひつ(大)	1	"	"
7	面(總長)	1	"	"
8	面(福太郎)	1	"	"
9	鳥帽子(總長)	1	"	"
10	鳥帽子(福太郎)	1	"	"
11	田主鳥帽子	1	"	"
12	鼓	1	"	"
13	お酒すず	1	"	"
14	直会用具(木杯)	4組	"	"
15	お酒かつぎ棒	1	"	"
16	鼻取棒	1	"	"
17	鍬	2丁	"	"
18	鳥追傘	1	"	"
19	よし草	2束	"	"
20	直会用具	1	"	"
21	田祭絵(額)	1	"	"
22	木製大注連縄	1	阪野一平氏	間眠神社祭
23	間眠神社絵図	2	稻山久衛氏	"

№	資 料 名	点数	提 供 者	お 祭 り 名
24	太 鼓(大)	1	川原ヶ谷三島ばやし 保存会	三島大社夏祭り
25	" (小)	2	"	"
26	ほろづき提灯	2	"	"
27	木 杵	1	"	"
28	すりがねバチ	3	"	"
29	小太鼓(皮)	2	"	"
30	鼓 (大)	1	"	"
31	鼓 (小)	1	"	"
32	バ チ	2 組	"	"
33	すりがね	3	"	"
34	横 笛	2	"	"
35	きね(やつさモチ)	8	市内佐野地区	や つ さ 祭 り
36	せいろう	1	郷 土 館	"
37	う す	1	"	"
38	曳 車	2	沼津市多比伊勢 神 明 宮	サイの神祭り
39	絵馬(明治11年)	1	"	絵 馬
40	絵馬(明治7年)	1	"	"
41	絵馬(明治14年)	1	"	"
42	絵馬(いのししの絵)	1	"	"
43	虎 の 頭	1	南伊豆町小稲地区	小 稲 祭 り
44	虎 の 衣	1	"	"
45	虎 の ヒゲ		"	"
46	神 楽	1	修善寺町加殿地区	子 の 社 社 の 祭 り
47	長 持	1	"	"

No.	資 料 名	点数	提 供 名	お 祭 り 名
48	太 鼓	2	修善寺町加殿地区	子の神社の祭り
49	刀	1	"	"
50	笛	1	"	"
51	す ず	1	"	"
52	バ チ	1対	"	"
53	幕	1	"	"
54	三島大社総図	1	朝 日 章 子 氏	